

## Green Sports Blog

### The GSB Interview：澤田陽樹氏（Green Sports Alliance Japan 設立者）

“Green Sports Alliance”（以下、GSA）は北米を中心に約9年間活動してきました。そして2018年4月22日の“Earth Day”に“Green Sports Alliance Japan”（以下、GSA Japan）が設立されました。

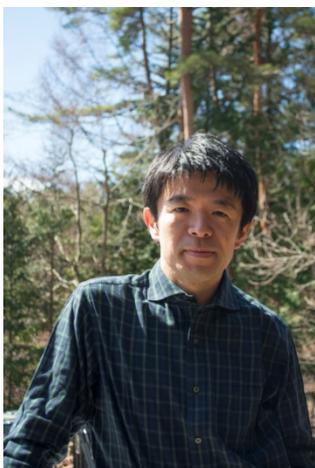
もう間もなく1周年を迎えるGSA Japanの代表理事である澤田陽樹氏に法人設立に至った経緯や今後の展望などをお伺いしました。

GSB：

澤田さん、本日はお話をお伺いでき大変光栄です。[GSA Japan](#)を設立するにあたっての経緯や、実現するための仲間をどのように集めたのかについて、お話をお伺いできますか？

澤田氏：

このような場を頂けて、こちらこそ光栄です。経緯をお話しすると結構長い話になります。私は、2017年9月まで16年間、三菱商事で主に化学関連の仕事をしていました。直近の3年間はデュッセルドルフに駐在し、ヨーロッパ中で化学製品の取引を行っていました。2016年の初め、私は、BASFやDowの本社を訪れた際に、いくつかの変化が起きていることに気が付きました。これらの企業はバイオプラスチック、原料融通計画、生産工程の革新、洗練された運用、ナノテクノロジーなどを検討し始めていました。これらの事業は、社会的、環境的な課題に対する取り組みであり、それらの取り組みは非常に順調でした。私は「日本市場にもこういった発展が必要なのではないか」と自問自答しました。そして、私は、三菱商事の経営陣に対して、持続可能性を高めた新しいビジネスモデルを次々に提案するようになりました。



Green Sports Alliance Japan 澤田陽樹氏（出展：GSA Japan）

GSB :

それで彼らの反応はどうだったのですか？

澤田氏 :

三菱商事では他の日本企業に先んじて、事業戦略に持続可能性の観点を取り入れ始めていました。しかし、それらの取り組みは初期の段階であり、私のアイデアは、経営層に実行に移すように説得することはできず、実現には至りませんでした。自分の上司に同じアイデアをぶつけましたが、結果は同じでした。私は、見えない何かが存在していると感じました。その後、私は 2016 年 11 月にベルリンでのバイオプラスチック関連のカンファレンスで “Justin Zeulner” に出会ったのです。

GSB :

当時の GSA の会長ですね。

澤田氏 :

そうです。はじめは「なぜ、このアメリカ人はバイオプラスチックのカンファレンスでスポーツの話をしているのか？」と思いましたが、彼は、食品から照明、空調設備に至るまで、スタジアムやアリーナのサプライチェーンがどのように構築されるかについて話しており、それらは他の産業と同じく、温室効果ガスの排出問題を抱えていることに加え、スポーツがいかに多くの人々に触れるものであるということを説明していたのでした。私の上司と私は、なぜ彼がここにいるのかをすぐに理解しました。持続可能性のあるすべてのビジネスアイデアはスポーツに関係する可能性があると感じ、私は Justin Zeulner と継続的にコンタクトを取り、日本での「未来に向けて、人・モノ・地域の『心豊かで健全な在り方』を希望すること」のスポーツを通じた実現に向けた非営利団体の設立について検討を始めました。

GSB :

非常に大きなリスクがあるように感じますが…

澤田氏 :

そうですね。日本において非営利団体を設立するために、大企業を離れることは、アメリカやヨーロッパと比べると非常に困難なことです。それだけではありません。起業においても、アメリカのように起業家文化が醸成されておらず、加えてビジネスとしてのスポーツも西洋諸国ほどの規模には発展していません。また日本では、“green” という言葉は広く認知された言葉ではありません。省エネや森林保全という意味での “eco” は認知され

ていますが、“green”や“sustainability”はそうでもありません。そうした言語の壁が、課題をさらに大きくしているように感じます。

GSB :

まるで、大きな山を登るようですね。

澤田氏 :

そうですね。しかし、私たちはいくつかの利点を持っていたのです。例えば日本は、原油やシェールガスなどを採掘することはできません。日本ではそうした燃料を輸入に頼ってきました。つまり、現時点では“sustainability”という言葉は使わないですが、日本では長きにわたって、そういった燃料に頼らず、持続可能な生活をしてきていると言えます。

GSB :

面白い視点ですね。日本ではどのような言葉で表現するのですか？

澤田氏 :

一般的な表現は“eco”です。いずれにせよ、私は Green-Sports に参画することで、日本市場がアメリカやヨーロッパなどの最先端の環境技術にアクセスできるようになるのではと考えました。また、日本の環境技術製品やサービスを世界に販売することも可能になります。私は Justin Zeulner に連絡をとり、GSA Japan を設立する準備ができていることを伝えました。

GSB :

大きな一歩ですね。本当に尊敬します。次はどのような行動をとられたのですか？

澤田氏 :

2017年に Justin Zeulner とボードメンバーの Jason Twill が来日した際に、私は彼らに非営利団体設立に向けた計画と、GSA Japan の創始者である吉野幹夫さんの協力で富士山の近くに本社を設立することを報告しました。加えて私は、彼らに対し、日本には非営利団体に寄付を行う文化が成熟していないので、この取り組みが大きな挑戦になることを伝えました。

多くのスポーツチームは現在、“eco”や“green”のプログラムを求めているわけではありません。日本の約95%のスタジアムやアリーナは、チームではなく、自治体が所有し、これにより複雑さを増しています。しかし、こうした挑戦ではありますが、GSA Japan を立ち上げるに際し、日本には十分な機会があり、十分にエコ文化や技術革新の精神が根付いていると感じていました。

そして私たちは、2017年12月に登記を完了し、2018年4月末には活動を開始しました。とてもうれしいことに、GSA Japan の設立をサポートするために、ニューヨーク・ Yankees の上級副社長の Doug Behar 氏、マイアミ・ヒートのサステイナブルディレクターの Jackie Ventura 氏、そして Justin Zeulner、Jason Twill が日本に集まってくれました。

私たちの最初のパートナーは、日本最大規模のスポーツ用品グループ“[ゼビオグループ](#)”が支援を行うプロアイスホッケーチームの“[東北フリーブレイズ](#) (青森県八戸市)”です。ゼビオグループでは、現在、青森県八戸市に“[FLAT HACHINOHE](#)”と呼ばれる新しいアイスアリーナを2020年春の開業に向けて整備を進めています。GSA Japan では、今後、アリーナのグリーンプロジェクトマネージャーとして、社会的および環境的な“sustainability activation”を展開していきます。



東北フリーブレイズの将来のホームアリーナイメージ (出展：東北フリーブレイズ)

GSB :

素晴らしいです。どのような取り組みになるのでしょうか？

澤田氏 :

フリーブレイズのファンや地域コミュニティがから使わなくなった古着のダウンジャケットを回収する計画を立てています。集めたダウンジャケットは、東北フリーブレイズや羽毛のサプライヤー、アパレルメーカー、デザイナーそして私たちと共同することで、新

しいベンチコートとして生まれ変わります。生まれ変わったベンチコートは選手やコーチ、そしてアリーナに観戦に訪れたファンの皆さまにも貸し出しが行われる予定です。このように多くの人々を巻き込むことで、アリーナの空調コストを削減し、温室効果ガスの排出量削減に貢献できます。

GSB :

本当に重要なことですね。GSA とはどのような関係性になるのでしょうか？そして、今後はどのように成長資金を集めていくのでしょうか？

澤田氏 :

私たちは財務的な観点から見ても GSA からは独立した組織です。ライセンスを最大限活用し、ブランド全体の認知度を高めるために協同しています。収益化の部分については、現在はパートナーとの間でレベニューシェアの協定を結んでいます。

GSB :

先程、日本では寄付がそれほど盛んではないと伺いましたが、寄付は募るのでしょうか？

澤田氏 :

はい、その予定です。一方で創始者の吉野さんからはいつも言われているのですが、まず私たちは他者の発展や新たな価値創造のために働くべきだと思っています。ですから、現在は、私たちは日本のスポーツチームや施設と密な連携をとっています。

GSB :

第2のプロジェクトは動き始めているのでしょうか？

澤田氏 :

私たちは佐野高校ラグビー部と日本の包装資材の専門商社“シモジマ”の協同プロジェクトを推進しています。シモジマは佐野高校ラグビー部の国連主導の“[Sports for Climate Action Framewok](#)”への参画を支援しており、私たちはその取り組みのサポートをしています。



澤田氏（左側）は Green Sports Alliance Japan の活動を佐野高校ラグビー部の学生に紹介している。（出展：Green Sports Alliance Japan）

GSB：

グラスルーツレベルの活動にも参画される部分がとても素敵ですね。GSA Japan は、どのくらいの規模の組織で活動されているのですか？

澤田：

今は、私を含めて4人のディレクターと8人のボードメンバー、7人のアドバイザー、そして2名のオペレーションスタッフです。

GSB：

少数精鋭ですね。今はまだ小さな組織かと思いますが、野球、サッカー、相撲、ゴルフ、テニスといった日本の大きなスポーツ市場に対して、スタジアムやその他の現場での太陽光発電やその他のグリーン技術の導入に向けて、どのようにアプローチし、関係性を構築するつもりでしょうか？

澤田：

最近では、私たちは 2018 年 12 月にポーランドのカトヴィツェで開催された COP24 の場で実施された “Sports for Climate Action” のイベントで、いくつかの日本のスポーツチームを支援するなど、主導的な役割を担いました。

また、日本では 2025 年までに少なくとも 20 のスタジアム・アリーナの新設が計画されています。加えて、多くの既存施設でも改修工事が予定されています。そのため日本においてもエコシステムが機能する可能性があり、それが確実に実現するようにしていきたいと考えています。

もちろん、日本はアメリカほどの規模はありませんが、私たちは、パリ協定や国連の SDGs の実現に向けて貢献できることがあると信じています。パリ協定や国連の SDGs は、気候の安定や人類の平和的な繁栄を広め、何億もの人々に拓かれた新しい機会をもたらす可能性を秘めていると思っています。日本のスポーツを通じて、それぞれの点と点をどのように繋げていくことができるかを非常に楽しみにしています。